

3.関係者の感想

阿南市特別名誉市民・ナカちゃん 長いようで、短い299日！

元阿南市那賀川支所長 浅川 義宣



平成17年11月2日早朝、那賀川の中州に現れて以来、その愛くるしい姿が人気を呼び、一躍那賀川のアイドルとなったアゴヒゲアザラシのナカちゃん。

確かに、ナカちゃんほど愛されたアザラシは知らない。ナカちゃ〜んと声をかけると、スーッとこっちへ泳いで来る。中州で昼寝しながら、こちらに挨拶するように手を上げたり、両手を合わせて“お願いポーズ”をして見せる。また、イベントや観衆に呼応したように、「主役は私よ」と言わんばかりに川面に突然顔を出したりする「おもしろいやっちゃ、見てたのかな」と大騒ぎする始末。ナカちゃんはお茶目で、なかなかパフォーマンス上手である。その上、ちょっぴりドジで周囲をハラハラさせるものだから、もうたまらない。守ってあげたいと誰もが胸をキュンとさせてしまう。4月20日に護岸ブロックのちょっとした窪地にはまり、いくらもがいても脱出出来ずにいた。初めて至近距離に近づきレスキュー隊を待つ間、「助けてよ」と訴えかけるような可愛い瞳と救出後の安堵の表情は今でも忘れられない。虐待される動物の多いなか、みんなに、家族のように愛されたナカちゃん。気まぐれで、おっちょこちょいで、なぜか人なつっこい、そんな彼女の一生は短くても、かなり幸せだったのかもしれない。 さようなら・ナカちゃーん！

ナカちゃんが残してくれたもの

那賀川河川事務所 建設専門官 池添 好巨



私たちにとって、ナカちゃんを一言で現すと「台風」のようでした。ナカちゃんが、那賀川に現れてから亡くなるまでの約10ヶ月、事務所へは住民の方から問合せや要望等の電話や来客が格段多くなり、私たちの仕事はナカちゃんを中心に動きました。ナカちゃんに関する電話が1日に数十回もかかる日もありました。電話では、ナカちゃんに関する熱い想いをたくさんお聴きしました。叱咤激励もありました。ナカちゃんがいつまでも那賀川に住める美しい川を守ってほしい。こんなところの川は、危ないよ。こんなところは、こうしてほしいとナカちゃんを通して川への住民の想いを直接聴くことができました。今まで、河川管理者(私たち)と住民の間には大きな川のように分断されていたものが、ナカちゃんという台風の後には川には立派な橋が架かっていました。私たちは、ナカちゃんが残してくれたこの架け橋をいつまでも大切に、美しい那賀川を住民とともに守り築いていきたいと想います。ありがとう、ナカちゃん。

川は地域共有の公共財産

那賀川河川事務所 建設監督官 坂本 雄彦
(現 徳島河川国道事務所 旧吉野川出張所長)



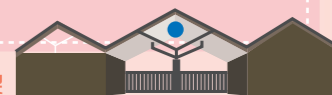
当時、オホーツクからの珍客を一目見ようと県内外を問わず見物人やマスコミ関係者が多く集まり、特に天候のよい休日には交通整理の警察が出動することもしばしば、というほどの賑わいぶりでした。

職務上は一時中止となった災害復旧工事の再開に関する検討会の開催、報道機関の対応やナカちゃん関係の種々の要望対応に追われ、私にとっては些か厄介な存在とも思いましたが、一方、地域住民はナカちゃんに少しでも永く居て欲しいという思いからか、周辺の清掃や見学マナーの注意を喚起しあつたり、一部の河川利用を自粛するなど、間接的とはいえ川に対してよい意味の不文律ができていくように思われました。

ナカちゃんが那賀川で過ごした299日間、人それぞれの思いがあることでしょう。「川は地域共有の公共財産」ということを再認識するヒントをくれたナカちゃんに感謝するとともに御冥福をお祈りいたします。

ナカちゃんが教えてくれたこと

とくしま動物園 獣医師 城 翠



去る8月27日、那賀川のアイドルであった「ナカちゃん」が死亡しました。あまりにも突然の別れであり、私にとっても「ナカちゃん」ファンにとっても辛い一日となりました。翌日、死亡原因を特定するための解剖を行いました。皮膚を持つだけで剥がれてしまうほど腐敗が激しく原因解明には至りませんでした。

これらの事実は非常に残念なことでありましたが、「ナカちゃん」を通じて分かったことがあります。それは野生動物、自然環境等に関心を持った方たちが大勢いたことです。これは地域一丸となつての保護観察活動や、行政の連携等からも著実に現れており、このことは、胸を張れる事だとおもいます。

私達にとって「ナカちゃん」は何だったのかと自問した時、野生動物との共存のヒントを与えてくれた存在であり、「ナカちゃん」に関わった人との出会いや人が忘れかけていた何かを取り戻すきっかけを与えてくれた存在であったように思います。本当に色々な事を教わりました。今後も、「ナカちゃん」に出会えたことが私達の貴重な財産となり、教訓になり続ける事と思います。